



発行日=2005年6月25日 発行人=面出 薫 編集=田沼 彩子・永津 努・窪田 照彦
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内 (田沼 彩子)
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

照明探偵団通信

vol.22 Shomei Tanteidan Tsu-shin

海外調査レポート1

「光の舞・オーロラ観測ツアー」

～ Alaska・Fairbanks ～

海外調査レポート2

「メガロポリスNY夜景ツアー」

～ USA・New York ～

海外展示会レポート

Lightfair International 2005

～ USA・New York ～

照明探偵団倶楽部活動1

街歩き報告(3/25)

皇居周辺 東京に残された巨大な闇

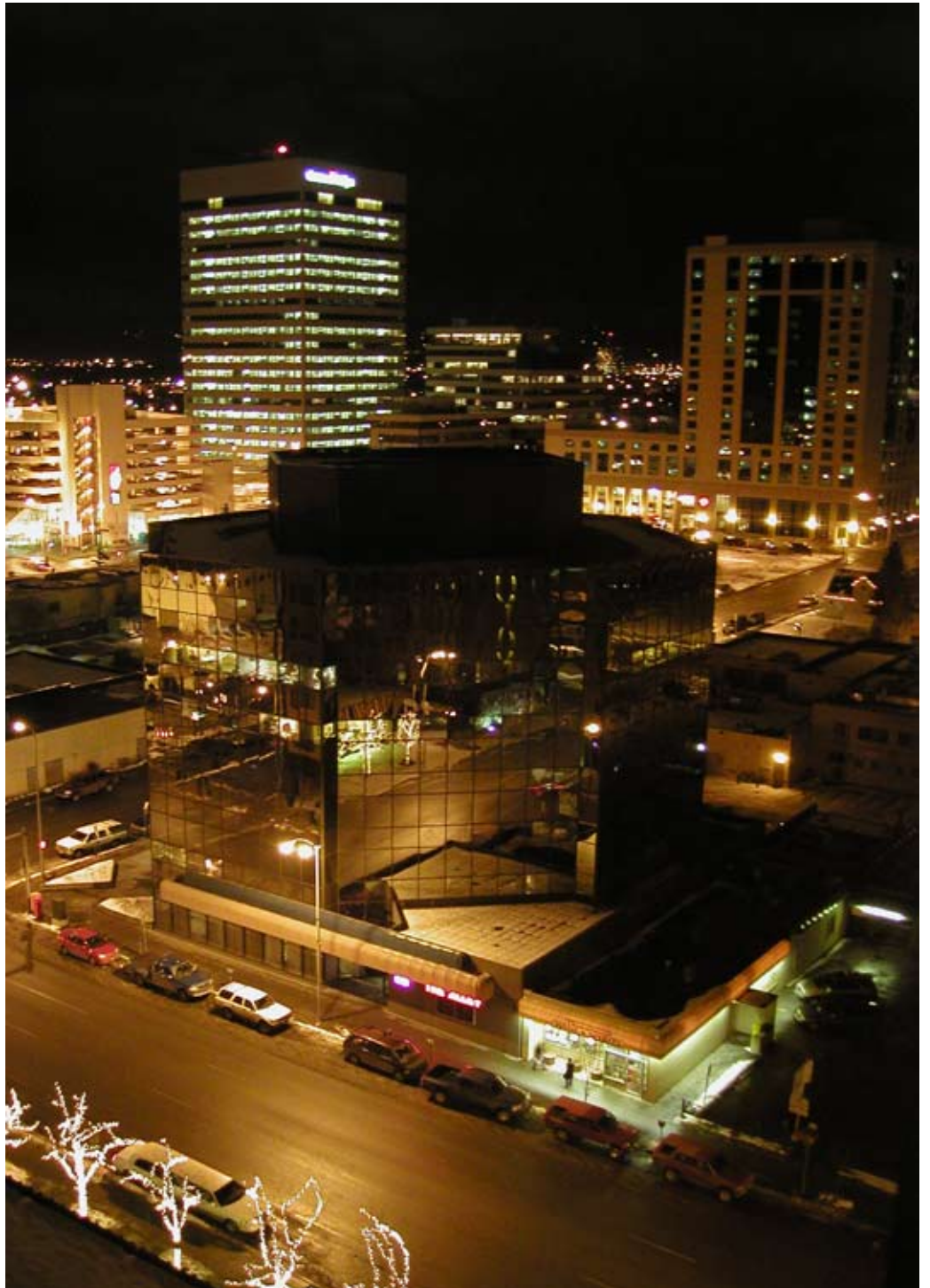
照明探偵団倶楽部活動2

研究会サロン報告(4/5)

照明探偵団倶楽部活動3

照明探偵団 デンマーク支部メンバー

東京の夜を歩く(4/6)



アラスカ/アンカレジ・ダウンタウン

光の舞・オーロラ観測ツアー

Alaska・Fairbanks

2005. 2. 28- 3. 6

面出 薫 + 上田 夏子 + 窪田 照彦

誰もが生涯に一度は目にしたいオーロラ。アメリカ・シアトルからアンカレッジ、フェアバンクスと、飛行機を3度乗り継いで18時間・・・。

そこは雪と氷が大地を覆いつくす極寒の地でした。防寒対策を万全にし、オーロラを求めていざ出発！



アラスカの大地



一面銀世界の山々

フェアバンクスは北極圏までわずか 200 km の距離に位置し、北半球で最も明るいオーロラが見える町。夏の気温は 20℃前後、冬の一番寒い時期で -30℃と、年間気温差が激しいところです。滞在期間一週間のうち、オーロラ観測のチャンスは 4 回。曇りの日には観測ができません。だからといって晴れていれば観られるというわけではないのです。



オーロラと共に

■オーロラとは

オーロラは一度姿を見せると、10分から1時間は夜空の闇の中を浮遊します。容姿もさまざまに変化し、雲や霧のように見えるものもあれば、皆さんご存知のカーテン状のもの、上空から放射状に広がるコロナ状のオーロラもあります。色も同様で、赤や青、紫と多彩ですが、そのほとんどが緑、もしくは黄緑色です。今回観測した中では、緑の他にかろうじて赤色を感じたくらいです。そうそう、大切なことを忘れていました。オーロラはどのようにできていくのかというと、はじめは雲なのか、霧なのか、それがオーロラかは判断が難しく、個人差はあると思いますが、色もごくわずかに黄緑色に見えるかどうかということでしょうか。凝視していると、徐々に形が変化し、なおかつ明るくなったり暗くなったり変化が見られるようになります。そしてブレイクアップ現象という時間帯になると、ひらひらとカーテン状に見え、これがオーロラかあ！と確信がもてます。ブレイクの時間はわずか数分で終わってしまいますが、これこそオーロラの魅力といえるでしょう。

■アラスカに露天温泉？

「アラスカに露天温泉があります」と耳にすれば誰もが疑うでしょう。しかし、フェアバンクスから東へおよそ 100km、車で1時間30分位のところに、チナ・ホットスプリングスという温泉リゾートがあります。オーロラ観測前に温泉につかりながら長旅の疲れを癒し、気長に待つ。このうえない幸せです。温泉は日本とは違って、水着着用です。水深も首から顎にかけてと深く、プールのような感覚です。不思議なのが、気温が -20℃下回るなかで、水温 38 ~ 40℃。このギャップにはじめは驚きましたが、湯気が頭を寒さから守ってくれます。ただし、髪の毛は白髪の如くカチカチに凍ってしまいます。



チナ・ホットスプリングス

■氷のホテル

チナ・ホットスプリングスには、期間限定で氷のホテルが在ります。正確にはホテルではなく、氷の博物館という名所で、正確にはわかりませんが 200 m²ほどの敷地に、聖堂やアイスバー、シャンデリアなど、建築とインテリアの全てが氷でできているのです。氷は色とりどりにライティングされ、幻想的な光景が広がっています。しかし中に入ってみると案外暖かいのには驚きました。この建物の中に、宿泊できるアイスルームがあり、カリブーの毛皮を敷いて寝るということです。もちろんベッドも全て氷です。一泊1人 \$200 と高めですが、興味のある方はぜひどうぞ。



氷の博物館



ついに姿を現したオーロラの舞

■今日も駄目なのか！？

その日の夜は一層冷え込みました。風が強く、体感気温 -30°C を超える寒さだったので、前回より防寒対策を念入りに行いました。寒さでカメラも支障を来たすので、布をぐるぐる巻きにして、桐灰カイロで温めながらの撮影です。ホテルに戻る時間を考えて観測時間は夜 10 時～2 時。天候は快晴。しかし一向にオーロラが出る気配がありません。1 日目に現れた霧状のものは何度か見えましたが、むなしくも時間だけが過ぎていきました。時計の針は 1 時 30 分を回り、今日もだめかと諦めかけていたころ、そのときはやってきました。はじめは 2～3 本の細い帯状のオーロラが次第に 4～5 本と増えていき、竜が天空を舞うかのように広がっていきました。ブレイクだ！帯はみるみる姿を変え、とうとうカーテン状のオーロラに出会うことができました。窓を少し開けたとき、そよ風でレースのカーテンがひらひらするかのよう、光のカーテンは闇の中を漂っていました。あれほどのくらの時間だったのかははっきり覚えていませんが、時計を見ると 2 時を過ぎていました。その瞬間の胸の高鳴りは生涯忘れることはないでしょう。



早朝青い世界が広がる



フェアバンクス朝焼け

■早朝のブルーモーメント

オーロラ観測を終えホテルに戻ると、温かいホテルの中で暖をとりながら軽食をとります。寒さで体力を奪われるので、お腹が減るのです。アイスワインやチーズを口にしながら、デジカメ一眼で撮影したオーロラを PC でチェックして仲間とわいわい語り合います。そうこうしているうちに、辺りを支配していた闇の世界が終り、徐々に明るくなって青色に染まっています。一面白銀の世界なので、青色が地面や建物にまで及び、とても美しい光景が広がります。



寒い中での明かりはほっとする



オーロラ観測で疲れていても、この空色を心に留めておきたい

オーロラを見にいきたくとも、なかなか行動に移せません。しかしここで出会える光は、明らかに他とは違います。思い立ったが吉日。行こうと思ったらぜひ訪れることをおすすめします。

(窪田 照彦)

メガロポリス NY 夜景ツアー

America・New York

2005. 4. 9-13

森秀人 + 板倉厚 + 永田恵美子 + 奥中顕子

LIGHTFAIR の開催されたアメリカ最大の都市、ニューヨーク・マンハッタンを訪れました。"ニューヨークの夜景"と言えば、それを謳い文句にしたツアーがたくさんあるほど有名ですが、その美しさはどれほどでしょうか。定番、穴場スポットからのニューヨークの夜の表情を、ワシントンスクエアパークで行われたライトアップゲリラとともにレポートします。

マンハッタンは2つの川に挟まれた南北24km、東西4kmの島で、面積にして山手線の内側と同じくらい。この中にビジネスも商業もエンターテイメントも詰まっただけで過密状態、道路はいつも交通渋滞、と言えば東京と似ている。ただ、東京とは違ってマンハッタンの中に住んでいる人も多いそうだ。街は南北に走るアベニューと東西に走るストリートからなり、中央のやや南にエンパイアステートビルが位置する。観光客が街を見下ろせるのはこのビルだけだが、島の外から眺めるポイントはいくつかある。また、ツアーに参加すればヘリコプターに乗って、上空から夜景散策、なんてことも可能だ。

■マンハッタンを見下ろす

まずは老舗ビルのエンパイアステートへ。地上102階の展望台からは、ひときわ明るい5thアベニューや33rd、34thストリートがよく見える。頂部がライトアップされているビルもあるが、日本のように広告塔を乗せたビルが無いせいか雑多な感じはしない。マンハッタンのまわりの住宅街もよく見え、東西南北どちらを向いても地平線まで光が散りばめられている様子はすばらしくきれいだった。住宅街の光が暖かい色なのはやはり白熱灯を好む国柄だろうか。道路照明もほとんどが高圧ナトリウムランプを使用しているため、オレンジ色の光を放っているのだが、一部のメタルハライドランプが使われている通りでは白っぽい光も見られる。今後、徐々にメタルハライドランプに移行していきらく、そうなればここから望める夜景も変わるだろう。



エンパイアから見た5thアベニュー



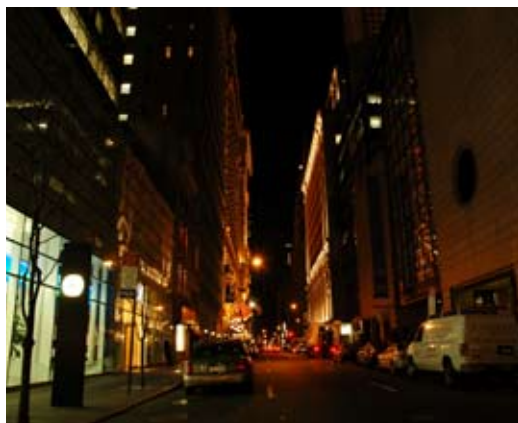
LEDのサインであふれるタイムズスクエア

■LEDの洪水

タイムズスクエアは観光客やビジネスマンでいつもいっぱい。テレビ中継にもよく登場するせいか、交差点に面するありとあらゆる壁面が企業や店舗の広告で埋め尽くされている。ビル全体をぎっしりと覆い尽くすLEDが昼夜なくひっきりなしに明滅をくり返し、さまざまな動きを作り出す。壁面看板もあるが、強力なフラッドライトで照らされていて、交差点の真ん中の交番までピンクと青のネオンで彩られている。ここまで主張しあっていると、もはやどれかが目立つとか印象に残るということはなく、湯気を出すカップヌードルやトイザラスのロールブランインドを上手く使ったちょっとアナログな広告のほうがインパクトが強いように思われる。行き着くところまで行き着いた感のあるこのタイムズスクエアが、今後どのように変わっていくかが見ものだ。



信号待ちするイエローキャブ



夜の5thアベニュー

■東西高級ブティック街比較

夜の5thアベニューも歩いてみた。高級ブティックが立ち並ぶ通りなのだから、さぞかし華やかだろうと期待して行ったのだが、地味な印象だったというのが正直なところ。銀座などの明るいけれど雑然とした雰囲気とは違って随分と落ち着いた。建物から漏れ出てくる光の量が圧倒的に少ないのだ。古い建物を改築した店舗ではファサードを大きくとれないためだろうか？いや、それだけではない。日本の街にあふれている塔屋サインや内照式の袖看板がほとんどないのだ。5thアベニューに限らず他の通りでも景観を無視したような屋外サインが少なかった。サイン規制があるのか、自主的になのかはわからないが、どちらにしる街並みに対する意識の高さが見てとれた。



ニュージャージーから見たマンハッタン

■必見、夜景穴場スポット

マンハッタンからハドソン川をはさんで西側のニュージャージーも訪れた。ここは、ガイドブックにまだあまり紹介されていない夜景ポイントなのだそう。対岸の駅を出ると、マンハッタンを一望できる圧巻の大パノラマ夜景が広がっていた。穴場スポットだけあってジョギング途中で休憩する人などがわずかにいるばかり。街中の喧騒がウソのように静かなところだ。川の向こうに見えるマンハッタンはスモッグのせいか、街全体がやや赤みを帯びている。水面に映り込む道路照明が放つオレンジ色の光、林立するビル群のあかり、エンパイアステートのライトアップされた光で、夜景はさらに魅力を増す。ただ、WTCというシンボルが無くなってしまったせいか焦点を失った景色にも感じられた。



懐中電灯にフィルタをかけて準備する Jason さん



ベンチを照らす団員たち



ミュージカルシアターの並ぶ 42nd ストリート

■ライトアップゲリラ @ ワシントンスクエアパーク

TN探偵団 NY 支部の Jason と Eleni の呼びかけで、ワシントンスクエアパークでのライトアップゲリラに参加した面々。今回は、たくさんの懐中電灯で公園の中のいろいろなものを照らしてみようという試みだ。しかし、この公園には高圧ナトリウムで拡散タイプのポール灯が設置されていて、その数が異常に多い。犯罪を懸念して明るく明るくということなのかもしれないが、グレアが本当にひどい。みんなで花や樹を照らしてみるのが、ポール灯の光に負けてどうも効果が出ない。では、グリーンでベンチを照らしてみても、なんてこともしてみるのが、大の大人が懐中電灯を持ってみんなでベンチを照らす姿はなんだか少し滑稽なような……。だが、すべてがオレンジ色に染まる中でのグリーンは幻想的で、なかなか良い発見があったように思う。

同じ巨大都市として東京とよく比較される NY であるが、タイムズスクエアやシアターの派手な光と、そうではない落ち着いた光があった。これらの光に、照明のみならず都市景観に対する意識の違いをあらためて感じ、私たちが見習うべきところがあるように思った。現在のニューヨークの夜景は一時的に顔を失っているが、WTC 跡地にビルが建設されれば、またマンハッタンの新しい夜景が生まれるのだろう。いつかまたニューヨークを訪れる日があればその夜景も見たいものである。

(奥中 顕子)